

# あけぼの

高知県骨髄バンク推進協議会会報・第11号 2006.3.1.発行

## 第13回高知県骨髄移植講演会 『命を救えるのはあなただけかも知れない』

主催・高知県骨髄バンク推進協議会 後援・高知県・高知県医師会・高知県内33ライオンズクラブ

開催日時・平成18年2月11日13時30分

開催場所・高知市本町高知商工会館

### ☆☆ 6名の骨髄提供者を表彰 ☆☆



### ☆☆ 300名近くの聴講者で大盛況！ ☆☆



【写真説明】 上・今期は推進協議会創立以来最多の6名という骨髄提供者があり、下司孝暦顧問（初代協議会会長）より感謝状が贈られた。

下・写真のように会場へ収容できないほどの盛況で、主催者側にとって歓喜の一言に尽きる。盛況の原因は、『あなたはドナーになりますか』高知新聞朝刊トップに連載されていた記事が、読者間に大きな反響を呼んだものと思う。

発行：高知県骨髄バンク推進協議会  
発行者：依光聖一 編集者：野村土佐夫  
〒780-0870 高知市本町3-6-10 大倉ビル  
☎・088-823-2035 FAX・088-823-2040

平成18年2月11日 13時30分

第13回 高知県骨髓バンク推進協議会主催

## 骨 髄 移 植 講 演 会

高知市高知商工会館において、表題の講演会を開催。聴講のため高知学園短大衛生技術科や高知県立総合看護専門学校の学生が多く、一般を含め270名以上の参加で追加の椅子を出すほどの盛況であった。

総合司会・野村土佐夫協議会専務理事。依光聖一・高知骨髓バンク推進協議会々長が主催者を代表して挨拶（要約）をされた。



「本講演会に多くの方々の出席を心より感謝する。本会は、血液の難病にかかれ骨髄移植に運命を託される患者に一人でも多く、骨髄移植を受けて健康回復後の家庭生活を、そして社会生活に復帰できるように願って現在まで活動を続けてきた。本協議会の一番の目的は、ドナー数が増えてほしいことで、それが患者に大きく反映するものと願ってはいるが、後刻の講話で聞かれると思うが、ドナーになれるのには一定のリスクを伴うのである。従って講話をよく理解したうえで、家族内で話し合い、その結果個々の意思を決定されたいと願っている。骨髄移植のドナーが提供される貴重な骨髄液というのは、ドナー自身が様々な課題を乗り越えドナーを囲む家族の方、そして周囲の方々の思いが籠ることだろう。単に骨髄液を提供するというだけでなく、出席された皆様方の大いなる声援を受けられることにより、患者が治療における耐えがたい苦しみを乗り越える力になり、そして皆様の熱情が患者に伝わるものと思っている。本日これより県下でも有数な血液の分野で活躍されている先生方に骨髄移植とドナーの話などを拝聴する。また献血についての話もあるが、休憩を挟んでアトラクションとして、アンデス音楽を聴きたいと思っている。その後、骨髄提供者と移植体験者の二人の貴重な話を拝聴していただきたい。本日の講話を自宅や会社で是非話題に出していただきたい。深く正しく知ることが真の意味のドナーの確保に繋がると信じている」



来賓挨拶は、高知県知事代行・畠中伸介県健康福祉部長（要約）

「本講演会の開催を喜ばしく思う。依光会長のもとに会員の骨髄移植に関する啓発と普及に努められること

に敬意を表したい。全国移植例7000を超え血液病患者が健康を取り戻している。今回、戸田浩司氏の支援活動をきっかけに骨髄移植理解と支援の輪が広がっている。現在全国ドナー登録者目標30万人で、本県は1.221人の登録であり一層の協力を願いたい。本県の献血ルーム『日赤ハートピアやまもも』で常時登録を受け付けている。本日の講演会を契機として、骨髄移植への理解とドナー登録を切望する」

第一部・講演における司会は、田口博國・高知県骨髓バンク推進協議会副会長（高知大医学部第三内科教授）が務められた。

「第一部として骨髄のドナーの実態の話を今井先生に、骨髄移植の実際は砥谷先生に、献血の基礎知識として中田先生をお願いをしたい。質疑応答は三医師の講話後に受けたいので質問を考えていただきたい」

### ①今井 利・高知医療センター血液科医長

『ドナー登録から提供まで』プロジェクト放映。

**骨髄バンク・ドナー登録**

ドナー登録にあたっては、骨髄提供について正しくご理解していただくことが大切です。骨髄バンクのパンフレット「チャンス」をよくお読みになってから登録をご検討ください。

◎ドナー登録  
ドナー登録は2mLの採血で済みます。HLA型（白血球の型）はコンピューターに登録されます。

◎適合したら  
患者さんのHLA型と適合した場合は、骨髄提供について詳しい説明がなされます。

◎最終同意  
立会人のもとドナー候補者の最終的な骨髄提供の意思が確認されます。（家族の同意も必要です）




②砥谷和人・高知大医学部第三内科外来医長  
『骨髓移植の実際』。  
プロジェクター放映。




### 骨髓提供について

最終的な同意の後には、提供日や病院の調整と健康診断が行われます。骨髓提供ではドナーの安全が最優先されます。




◎入院

ドナーは提供の前日か前々日に入院して健康チェックと説明を受けます。通常3～5日の入院をすることになります。



◎骨髓採取

骨髓の背中側、ベルトの位置より少し下の腸骨に針を刺し、骨髓液を吸引します。  
(全身麻酔下で行われます)



◎退院

通常、提供後2～3日で退院し、日常生活に戻ることができます。退院後は健康診断を行うなど、ドナーの健康をフォローアップします。

**補足説明**

1. 現在、骨髓移植希望者数3.123名
2. バンクを介した移植実施数7.000以上
3. 県下の提供者数30例、最終同意数6名
4. ドナー登録年齢18才から54才以下健康者提供は20才から55才以下
5. 登録できない人は、病気療養中・服薬中・血圧関係・輸血経験者・血液病・腰の手術経験者・体重軽すぎ・過度肥満
6. 申し込み先・高知県骨髓バンク推進協議会  
電話088—823—2035  
高知市本町3-6-10 大倉ビル1F  
詳細な無料の説明書を常備。  
(以上)

### 骨髓移植について

正常な造血が行われなくなった患者さんの骨髓を、健康な人から提供された骨髓に置きかえ、病気を根本的に治療しようというのが骨髓移植です。



◎前処置

患者さんの異常な造血細胞を死滅させ、血液が全く造られない状態にします。



◎移植

移植当日、ドナーから採取された骨髓液を患者さんの静脈に注入(移植)します。



◎社会復帰

移植が成功すると患者さんは健康な血液を造れるようになり、普通の生活に戻れます。

**補足説明**

1. 臍帯血の大人への利用はもう少し時間がかかる。
2. 骨髓移植とは別に、新しい薬が開発されて治療に役立ってきている。
3. ドナーを探すには一番頼りになる存在は骨髓バンクであるので問い合わせを。(以上)

③中田恵朗・県赤十字血液センター技術部長  
『献血の基礎知識』。プロジェクター放映。

**補足説明 (献血状況グラフは7ページ)**

1. 献血後30分間の休養を取る。  
もし献血後、体調不良になれば血液センターへ通知すれば、24時間体制で治療する。



2. 献血 574 万人中約 1% が副作用 (気分不良)
  3. 平成 6 年の献血数 900 万台から、現在は 500 万台に減少。若者の献血を熱望。
  4. 県内献血数平成 4 年 56.7 万台～現在 4 万弱。
  5. 月別献血は冬と夏に減少。
  6. 400ml 献血促進策。
  7. 年齢別層輸血状況 50 歳以上が 82% に使用
  8. 献血における年齢層 50 歳未満 80%。
- (以上)



講演後の質疑応答。

田口博國・協議会副会長が立たれた。

質問 1. 「ドナー登録のこともう少し詳しく。献血活動の内容を聞きたい」

応答・今井「基本的に同

県に提供者と移植者が居ても、採取施設と移植施設とは別になっている場合が多い。同じ病院であっても、患者とドナーは判らないように配慮している。ドナー登録は比較的簡単にできる。提供は絶対に安全ではないので時間をかけて本人家族に理解を得ての提供が必要」

質問 2. 「ドナー登録後、移植に適合した場合の費用は保険適用されるか」

応答・砥谷「ドナー負担は無料で、患者が保険診療である」

補足説明・田口「前質問者のドナー登録を増やす方だが、日本のバンクは公的機関だから広報活動をしていない。このような移植に関する知識などの広報方は、全国任意団体が骨髄移植の推進活動をしている。県では 13 年前から高知県骨髄バンク推進協議会が、県内ライオンズクラブを中心に発足し、医大関係者・医療センターなどの血液疾患の診療にあたっている機関の先生方、医師会の先生方が一緒になって年に一回講演会を開催している。高知新聞紙上に骨髄記事が連載されているのでドナー増加のきっかけになればと期待している」

補足説明・依光「登録に赴く時の交通費は自己負担だが、コーディネートが開始されるとすべての費用そして入院にかかる費用もバンク負担となって個人負担は皆無である。ドナーが体調崩して入院・治療においても保険がついていて、もし死亡ともなれば 1 億円保証となっている」

休憩後、アトラクションとして大目真吉氏の率いるトサ・アミーゴスによるアンデス音楽『風とケーナのロマン、コンドルは飛んでゆく、早春譜、花祭り、ラ・マリポサ』を演奏。アンコールにも応えていただいて、全参加者の手拍子足拍子を添えて楽しくアンデス音楽を満喫した。



司会 脇口 宏・協議会副会長 (高知大医学部小児科教授)



「第二部に入る。私も若い頃は尺八を吹いていたのだが今は何処へ置いたのか記憶がない。今ほど田口教授の話にあったように高知新聞の連載記事に骨髄バンクについて一面に載っている。記事には五寸釘のような針とかかれてあったが、まさにそのような針である。これよりお二人の体験談を拝聴する」

### ①伊吹竜二・赤岡中学校教諭の体験談 (要約)



骨髄提供者からのメッセージ『未来に向けて』

「私は赤岡中学校の教員で、骨髄提供の体験を伝えたいと思う。骨髄提供の

きっかけは、教え子の死という悲しいことがあった。その年に、父親の死、娘の誕生と命にかかわることから、人の命についてなにか手助けができないだろうかと考えていた。まず月に一度の献血から始め、ドナー登録のポスターを見て登録を思い立った。

登録して数年後、骨髄移植推進財団よりドナー候補に選ばれたとの通知が届いた。

検査の結果ドナーに決定された。検査は血圧・BMI値の確認・血液検査があり、この中のひとつでも劣るとドナーになれない。ドナーに選ばれての後は食事や健康に留意した。現在マスコミを通じてドナー登録を呼びかけている。骨髄提供を待つ患者に未来への希望をもたらすことは、ドナーになれば普段から健康に留意しなければならない。骨髄採取の手術は四日間だった。一日目は昼頃入院。二日目は午前中の手術だったが麻酔で何の記憶もない。麻酔が覚めたら腰に少々違和感があった。四日目に退院。入院中に生徒が見舞いにきてくれて心強く思った。

退院後は普段どおり出勤したが、二週間ほど腰に違和感が残った。しかし生活には何ら支障なく暮すことができた。但し人によっては数日間休養をとらなければならないこともあり、また職場内の理解も重要なことである。骨髄移植に興味がない方、職場で提供のため休職される方、将来に罹病の可能性、家族がドナーとして提供を希望することなどを含めて、骨髄移植の内容を熟知することと協力を切望する。骨髄移植を待機している患者に一人でも多く未来への希望を与えてやりたい。

今後、生徒たちにも骨髄について、また移植での命の尊さを話し合いたいと思っている。最後にコーディネーターの岡田さん、調整医師の今井先生、手術担当の砥谷先生へ深甚の謝意を表したい」

## ②移植経験者による発表（要約）

### 『兄弟間の造血幹細胞移植を体験して』

「五年前の夏。今までにない高熱と倦怠感を覚えて、かかりつけの内科医の診断で、早急に高知医大へ入院をした。入院後、発熱と倦怠感でふらふらの状態で、いろいろの検査の結果、砥谷主治医から『急性骨髄性白血病』と診断された瞬間、目の前が真っ暗になり、主治医の難しい専門用語の治療説明を聞いたが、半分理解できなかった。しかし、現在の医療では治せない病気ではないし、元気に社会復帰も可能だから頑張って治療をしようと言われた。さて入院当日から抗がん剤の治療、鎖骨から点滴、輸血などさまざまな治療薬が体内に入ってきた。二、三週間するうちに頭髪が抜

けて言いようのない寂しさと恐怖心に襲われた。

最初の治療は成功し白血病細胞が完全寛解といわれ、その後、地固め治療の抗がん剤治療が二回行われたが、年の暮れの骨髄検査では白血病細胞の増加を聞かされ、根治させるには骨髄移植を勧められ、ドナーとして兄（関東在住）に検査を受けてもらった結果、HLAが一致し末梢血幹細胞移植の方法で移植することになった。兄はその後、正月休の一週間を利用して帰省し、必要な細胞を採取、冷凍保存された。

2001年2月1日から二日間かけて末梢血細胞移植が行われ、移植後、物凄い倦怠感と吐き気、口内炎、肺炎とつらい日々でその後、GVHDによる肝障害もあり、退院まで半年かかった。退院後もGVHD、による肝障害もあり退院まで半年かかった。退院後もGVHDだけでなくヘルペス、出血性膀胱炎、肺炎などあらゆる合併症で入退院を繰り返した。幸いにも白血病の再発は免れた。現在でも同じ病気で長い闘病生活の患者の方々の悩み、恐怖感、不安感を思うとき心が痛む。

私は幸いにして兄のHLAが一致したことで現在の私がある。少子化が進む今日、ますます家族のHLAの一致が難しくなっているの、一人でも多くの患者を救うために骨髄バンクのドナーの輪が広がることを心から祈っている。ご静聴を感謝する」

体験談発表後、平成17年度における6名の骨髄提供者、中島浩太、佐野善生、中越憲幸、伊吹竜二、北村 梢、深田規嗣（敬称略）へ下司孝麿・高知県骨髄バンク協議会初代会長（下司病院理事長）より感謝状と記念品を贈呈した。介添は、吾妻美子協議会理事（高知学園短大衛生技術科教授）である。



依光聖一会長よりお願い

1. 6名の骨髄提供者に賞賛の拍手。
2. ドナーになるのには家族間の話し合いと、勤め先への理解方、本人の決意。
3. 2月19日のドナー登録会への誘い。（末尾掲載）

閉会挨拶・田口博國副会長「長時間の聴講に感謝する。先ほど表彰くださった下司先生は、この協議会の初代会長であり、二代目会長が宮地産婦人科医院院長、依光会長は三代目に当たる。昨年は室戸市で開催したが、宿毛市、中村市、須崎市、佐川町、高知市数回、野市町、安芸市というように県内を巡回してきた。来年は今まで開催していない市町村へ出向く予定をしている。機会があれば、骨髄移植の大切さを知るために是非、友人知人に宣伝してほしい。聴講を心より感謝する。」 16時、全日程を終了した。

最新医療情報

**❁ 骨髄細胞を使った再生医療**

再生医療とは、「培養した細胞や組織、バイオデバイス（生きた細胞を組み込んだ医療機器）などを体内へ埋め込み、機能不全に陥った臓器や組織を再生・回復させる医療」なのですが、この分野では万能のES細胞が有名です。このES細胞、間葉系細胞と同様、近年、骨髄幹細胞、骨髄間質細胞が重視されています。

自己骨髄単核球細胞の移植による血管再生療法に加えて、骨髄細胞を用いた心筋再生治療が行われています。

また冠動脈が細くなる狭心症では、骨髄に含まれる「単核球」で血管を再生します。（関西医科大学）「血管内皮前駆細胞」で心筋梗塞患者の心臓に血管を作ります。（神戸先端医療センター）。血管内皮前駆細胞は骨髄より採取しやすく患者負担がさらに少なくなります。

アメリカでは、成人の骨髄の中にある間葉系幹細胞を培養して血球や骨、腱、筋肉などの細胞・組織を作ることにより、ベンチャー企業オシリス・セラムピューテイクス社が成功しています。また骨髄に含まれる骨髄間質細胞から、筋肉（骨格筋細胞）を効率よく出すことが2005年8月に京都大で証明されました。これは、筋ジストロフィーや事故、手術で筋肉を失った患者の治療につながる可能性があります。

骨髄系の細胞は、患者本人や親族から採取でき、死亡胎児の細胞や受精卵を用いる再生医療に比べ、倫理面や移植時の拒絶反応の門題が少なく、有用性が高い点でも期待されています。もともと、造血幹細胞移植自体が生命の再生医療であるのですが、骨髄幹細胞、骨髄間質細胞は今までの守備範囲を超えた治療法として期待があつまっています。

（全国協議会ニュース2005年10月1日発行より抜粋）

**❁ 骨髄バンクNOW**

日本骨髄バンクの現状（2005年8月末現在）

ドナー登録数	214,443	累計	274,970
患者登録者数	3,013	累計	18,961
骨髄移植例数			6,709
20才未満ドナー	823		

**❁ ドナー登録年齢54才まで引き上げ**

**骨髄ドナー登録会を開催**

高知市中央公園北口 2006年2月19日（日）  
12:00～16:30

主催 高知県 ・ 戸田浩司くん支援会  
高知県骨髄バンク推進協議会

**■ 希望するすべての患者に骨髄移植の機会を**



高知県健康福祉部：田上豊資副部長、高知県骨髄バンク推進協議会会長：依光聖一、戸田浩司くん支援会：坂本 隆事務局長、骨髄移植推進財団：折原勝巳部長、愛媛県骨髄バンクドナーサポートクラブから挨拶があり、地元ミュージシャン『スーパーバンド』ほか、応援コンサートが開催されました。

現在、高知大学一回生で闘病生活を送られている戸田浩司氏を始め、全国に血液病で生命を脅かされ骨髄移植を希望されている多くの患者のために、『戸田浩司くん支援会』が中心になって、標記公園北口で道行く人々へ骨髄バンク登録を呼びかけました。

登録開始から多くのドナー希望者が訪れ、登録の仕組みとその実際などを、係りから詳しい説明で納得されたあと、問診、採血し、31名の方々がドナー登録カードを受け取られました。

当日は、ドナー登録の仕組みなど理解されるように、パネル展示と全市民への周知を図るために、帯屋町を参加者一同でパレードを行い、骨髄移植の理解高揚に努めました。

（写真と記事・協会事務局）